

棚倉町キャリア教育シンポジウム
棚倉中学校 研究実践中間発表

「夢をつなぎ志を育み よりよく生きようとする子どもの育成」
～ 肯定的で対話的な関わりを通して ～



職場体験



壮行会



学級活動(3)

令和5年8月3日(木)
棚倉町立棚倉中学校



本校の紹介

16学級 401名

教育目標

「未来を見つめ、自ら考え行動できる生徒」



体育祭

生徒の実態（キャリア教育意識調査R4の分析より）

- 将来の夢や目標を持っている生徒が多い。
- 人の役に立ちたい、困っている人を助けたいという**他者への思いやり**を持っている。
- 自分で決めたことをやり遂げたり、自ら考え取り組むことが大切だと考えている。
- ▲**他者との関わり**の中で、自分の考えを伝えたり、深めたりする力が弱い。
- ▲難しい課題に直面したときに、**粘り強く取り組む**ことが苦手である。
- ▲勉強する際に、やり方を工夫したり、これまでの学習との関連を考える力が弱い。

棚倉中生につけたい資質・能力

○ 人間関係形成・社会形成能力（つながる力）

⇒ 自分の立場・役割を自覚し、他者と関わる力

○ 自己理解・自己管理能力（自律する力）

⇒ 自らの成長のために、正しく考え行動する力

○ 課題対応能力（乗り越える力）

⇒ 様々な課題に前向きに向き合う力

○ キャリアプランニング能力（見通す力）

⇒ 学ぶことの意義を考え、将来を拓く力

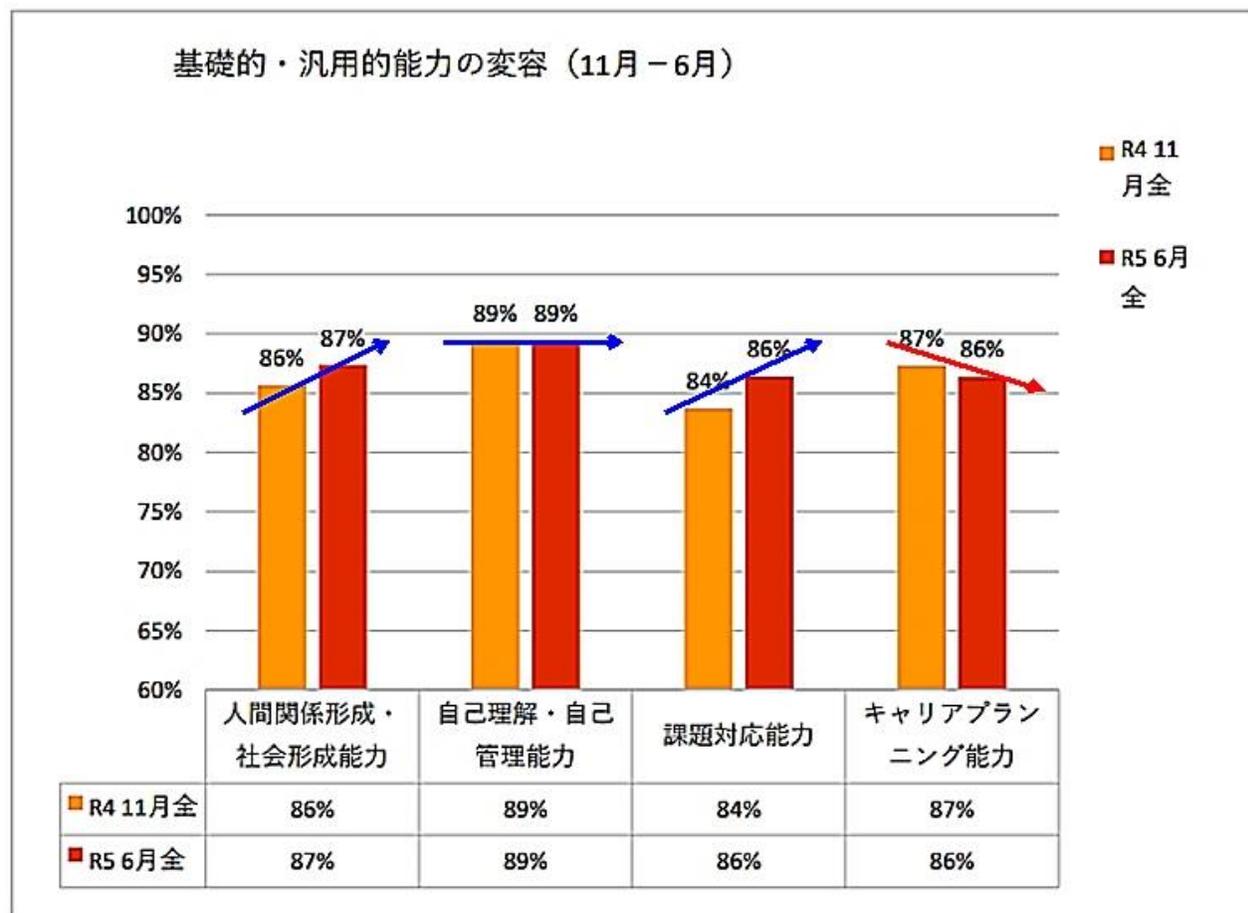


立志式



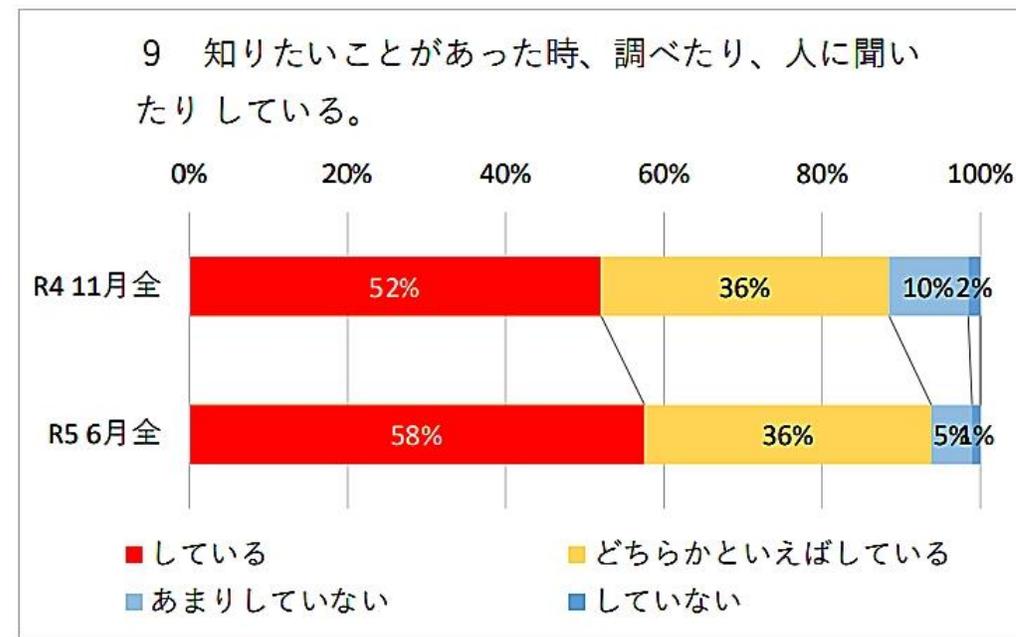
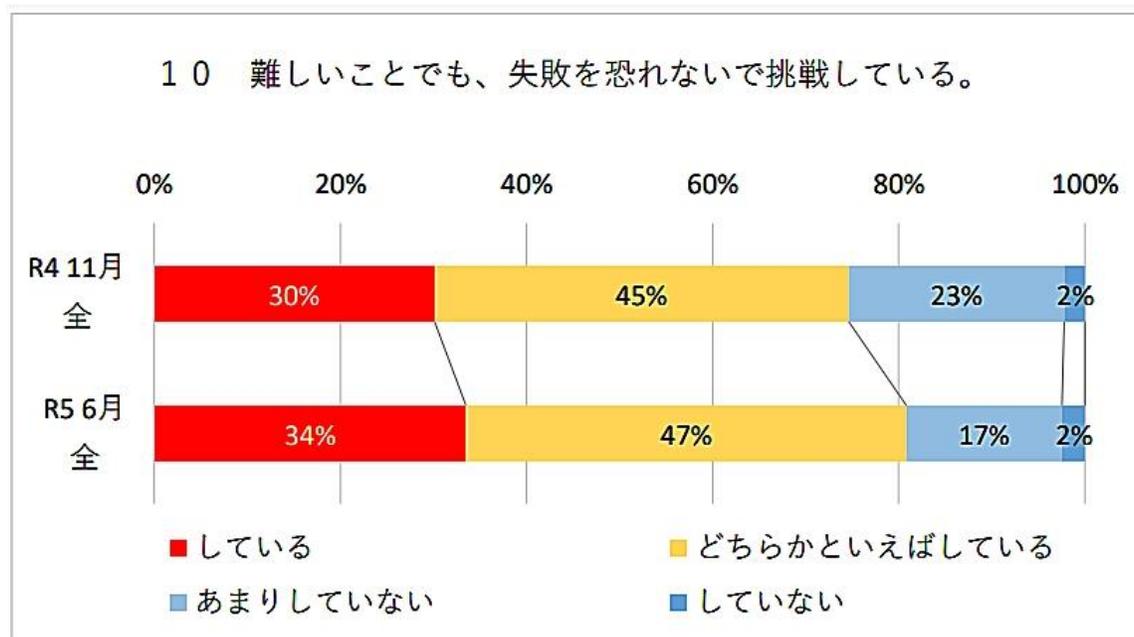
学級活動(1)

～キャリア教育意識調査(6月)の結果から～



- R4.11月 - R5.6月比較
 - ①人間関係形成・社会形成能力：+1%
 - ②自己理解・自己管理能力：±0%
 - ③課題対応能力：+2%
 - ④キャリアプランニング能力：-1%

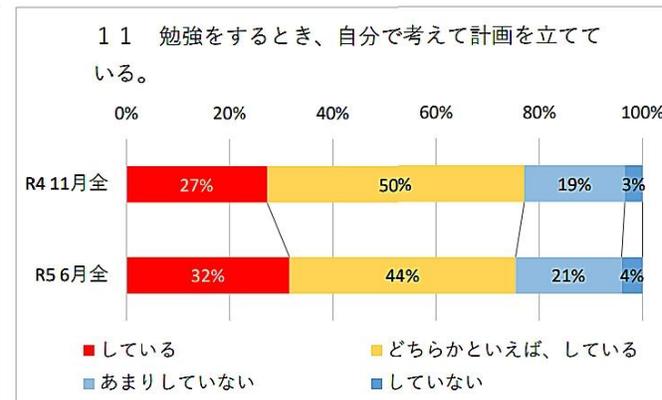
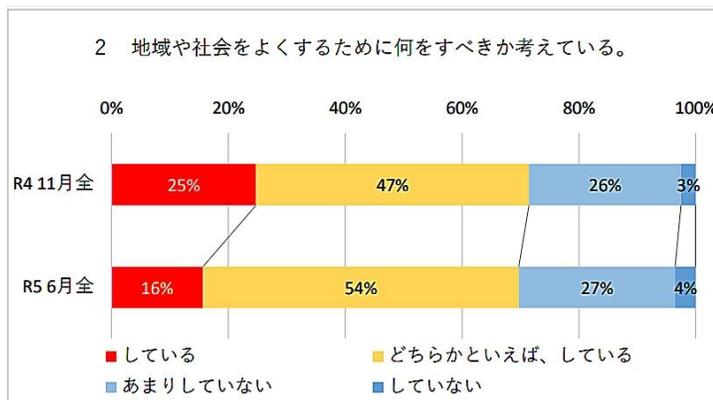
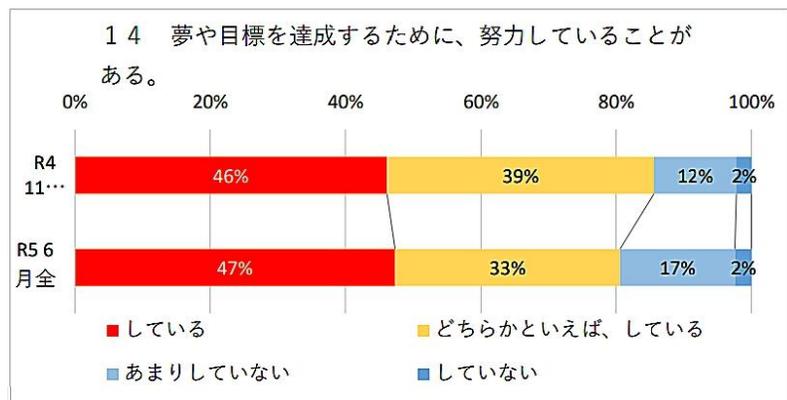
キャリア教育意識調査から（上昇した項目）



10 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。……………+6%

9 知りたいことがあった時、調べたり、人に聞いたりしている。…+5%

キャリア教育意識調査から（下降した項目）



14 夢や目標を達成するために、努力していることがある。…………… **-5%**

2 地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。…………… **-2%**

11 勉強するとき、自分で考えて計画を立てている。…………… **-2%**

今後の課題

- **地域との関わり、地域の一員**であることを実感させる取組の強化
 - ⇒ 総合的な学習の時間を中心に（地域理解学習）
- **フォーサイト手帳**の活用の徹底
 - ⇒ 「何を勉強するか」自分で考えて、取り組む内容を記入
- 持っている夢や目標を、**具体的な行動・努力**につなげたい
 - ⇒ キャリア・パスポートの活用
- **四半期ごとの振り返り・目標づくり**の定着
- 肯定的で対話的な関わりによる、**心理的安定性**の高い集団づくり
 - ⇒ **学級会**による土台作り
 - 16の技法
 - 「価値付け」「つなぐ」「語らせる」…日々の授業で実践

令和5年度の実践について

(1) 立志教育の推進

- 学習活動の流れの確立 「**生き方**」を考える
1年・志を求めて ⇒ 2年・志を立てる（立志式）⇒ 3年・志に向かって
- 棚倉町キャリア教育アドバイザー 岡野誠氏との連携（各学年2回の講演）

(2) 生徒の自発的・自治的な活動の推進

- ◎「**自分で決める**」をモットーに
「**意思決定**」「**合意形成**」の場の組織的・意図的な設定
- 生徒主体の学級活動「**学級会**」の充実
- キャリア・パスポートの活用
生徒の「**自己理解**」と教師の「**生徒理解**」の促進
行事ごと、**四半期ごと**の振り返り・目標作り

令和5年度の実践について

(3) 探究的な活動の推進

- 総合的な学習の時間を中心として、自らテーマを設定して学ぶ**探究学習**を実施

(4) 「ほめポイント」の明確化と共有

- 各学年・各学期で育てたい**資質・能力**の設定
上記を「ほめポイント」として共有
- 肯定的・対話的な関わり**の実践
「心理的安全性」「否定しない接し方」
16の技法
「価値付け」「つなぐ」「語らせる」

学級会の充実に向けて



- 学級活動（１）
「学級や学校における生活づくりへの参画」
- 話し合う議題の設定
- 子どもたちによる司会進行・話し合い・合意形成

- 合意形成・意思決定の場の設定
- 自分（たち）で決める体験の蓄積
⇒ 主体的・対話的な学びの土台作り



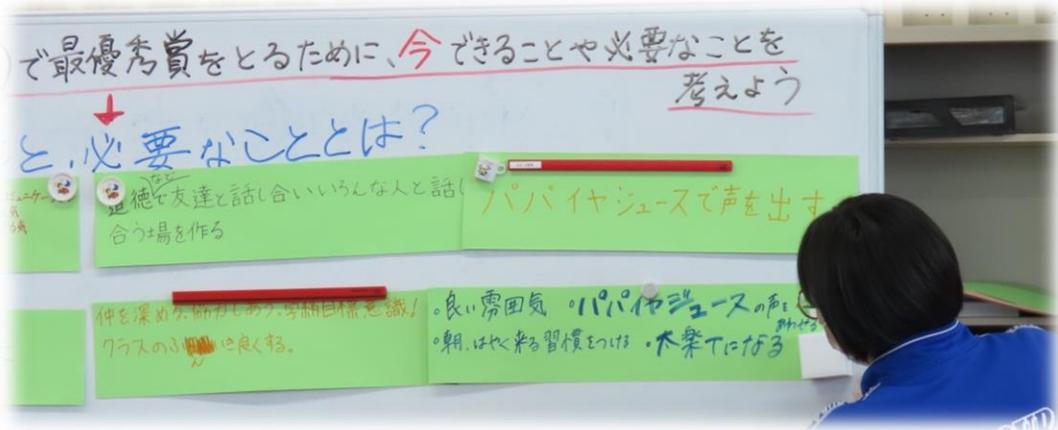
学級会の充実に向けて

「出し合う」⇒「比べ合う」⇒「まとめる」

- 合意形成の必要があるものとならないものを区別
- 意見ではなく、根拠を比べる。比較規準を示す。
- 満場一致はほとんどない。全員納得・満足を目指す。



教師主体⇒生徒主体への第一歩
(土台作り)



今後の課題

- 決定したことの**実践**・**振り返り**の場の設定
- **価値付け**のタイミング
- 教師の介入

5/31 パイオニア授業



探究的な活動の推進（総合）



地域の方々の町に対する
思い・考えに触れ、
改めて自分の考えを深める

棚倉町議会議員になりきって
マニフェストを作成

7/19 ゲストティーチャー講演会
(パネルディスカッション形式)



各学年・各学期で育てたい資質・能力

【各学年・各学期で育てたい資質・能力(ほめポイント)】			
	1学年	2学年	3学年
学年目標	「なりたい自分」発見！	前向きに全力で挑戦！	志に向かってチャレンジ！
第一 四半期 4～6月	自分や仲間を知ろう ～SSTや諸活動を通して、 お互いのよさに気づく力の育成～	深く広く考えよう ～話し合い活動を通して、新たな気づきか ら自分の考えを深める力の育成～	学び合い、お互いを高め合おう ～他者との関わりを通して、自分の考えを深 める力の育成～
第二 四半期 7～9月	自分や仲間を育てよう ～周囲との関わりの中で、 お互いのよさを育てる力の育成～	最後まであきらめない強さをもとう ～物事に取り組む時、最後まで粘り強く取り組 む力の育成～	自分の弱さと戦い、自分を高めよう ～自ら課題に気づき、自らの成長のために 正しく考え、行動する力の育成～
第三 四半期 10～12月	自分や仲間を伸ばそう ～周囲との関わりの中で、 お互いのよさを伸ばす力の育成～	互いに高め合おう ～自他のよさを認め、切磋琢磨しながら、 共にさらなる高みを目指せる集団の育成～	得意を伸ばし、苦手を克服しよう ～進路実現に向けて、様々な課題に前向き に取り組む力の育成～
第四 四半期 1～3月	将来につなげよう ～周囲との関わりの中で、 お互いのよさを将来につなげる力の 育成～	なりたい自分を描く ～夢を実現するために、見通しをもって学 習に向かうことができる力の育成～	志に向かって、努力！努力！努力！ ～将来を切り拓くために学び続ける姿勢の 育成～

四半期ごとの振り返りと目標づくり

令和5年度 第2四半期 (7~9月) 学年で育てたい資質・能力

令和5年度 第2四半期 (7~9月) 学年で育てたい資質・能力

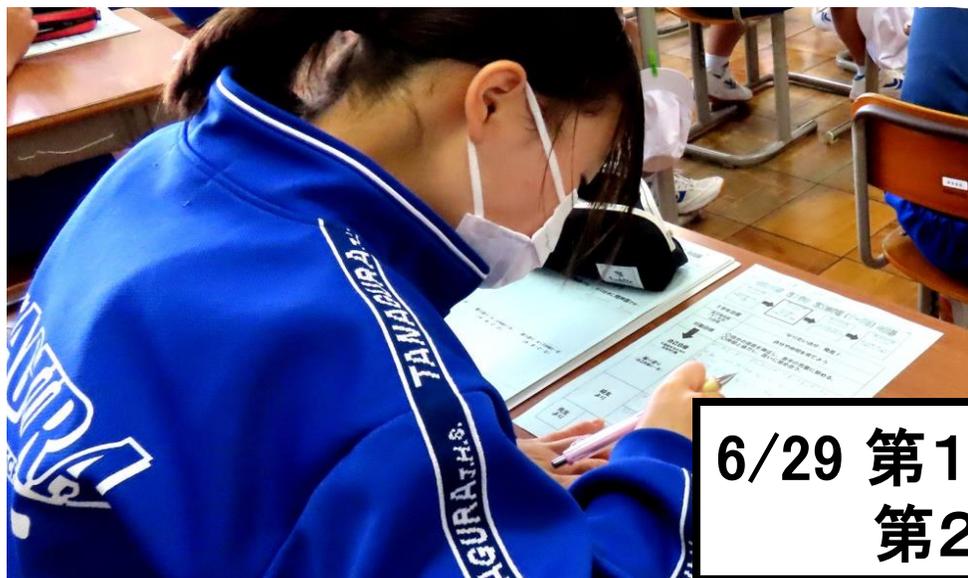
1 学年目標	「なりたい自分」発見!
資質・能力	自己理解・自己管理能力
目指す姿	自分や仲間を育てよう
行動の目標	○自分の得意を伸ばし、苦手克服に努める。 ○仲間と協力し、互いに高め合う。

令和5年度 第2四半期 (7~9月) 学年で育てたい資質・能力

2 学年目標	前向きに全力で挑戦!
資質・能力	自己理解・自己管理能力
目指す姿	最後まであきらめない強さをもつ
行動の目標	○小さい目標を立て、見通しを持つ ○方法の改善と向上

令和5年度 第2四半期 (7~9月) 学年で育てたい資質・能力

3 学年目標	志に向かって前進!
資質・能力	自己理解・自己管理能力
目指す姿	自分の弱さと戦い、自分を高めよう
行動の目標	○苦手なことに前向きに取り組む (苦手なことを避けない)



6/29 第1四半期振り返り
第2四半期目標作り

沖縄視察団(6/29)の感想より



- 生徒の実態として、男女の仲の良さ・素直さ・仲間と意見交換することができる支持的風土が学校にあることが伝わった。
- 子ども達一人一人が素直に目標を設定し、第1四半期の振り返りができている。ペアやグループでの共有では互いに認め合う姿がとてもよかった。
- 子どもの目標の中にも、コミュニケーションを大事にしたいという声が聞こえてきた。
- 振り返りより目標を書かせる授業が多いと感じた。
- 課題の全体共有をしたことで、自分事（自らの課題）が薄れ、目標を立てることに苦慮していたのではないかと感じた。
- 先生主導の授業だったので、子どもたちの発言を引き出し、それをつなげる（思考の再構築）授業づくりが必要と思う。

肯定的・対話的な関わりの実践

意味を説明できますか
続きが言えますか
もう一度言えますか
別の言い方でも言えますか
簡単に言えますか
気持ちが分かりますか
考えのよいところはどこですか
考えのヒントが言えますか

どういことですか
どのように考えたのですか
どうしてそうなるのですか

対話的な授業づくりにむけて
発問・声かけを工夫
【カード・各教室教卓に】

16の技法

No.	技 法	内 容
1	基本的に否定をしない	「否定」しなければならない場合は短時間・最小限で「フォロー」を
2	部分的に肯定する	ここまでは良かった / 考え方は分かる
3	人格と言動を分けて肯定する	人格は否定せず、「言葉の使い方」や「行為」について修正を要求
4	他に同意を求める	「○○さんは～言っているけど、□□さんはどう思う？」
5	語調に気をつけて肯定する	否定的に受け取られる語調にならないように
6	繰り返し継続して肯定する	繰り返し、変化をつけてほめる
7	見方を変えて肯定する	長所も短所も個性 言い換えて肯定的に接する
8	個人内で比較して肯定する	他と比較せず、個人内の成長・進歩を認める
9	組織的に肯定する（ほめる）	共有し、複数で同じ所を肯定する
10	計画的に肯定する（ほめる）	ほめるポイントを明確にし、様々な場で肯定する
11	些細なことでも肯定する（ほめる）	些細なこと、当たり前のことでも肯定する
12	言葉を肯定し、活用する	子どもの言葉を復唱する / 以後の会話でその言葉を用いる
13	因果関係に着目して肯定する	ネガティブな発言も、言葉の背景の中に肯定できるものもある
14	ストーリー化して、つながりで捉えて肯定する	複数の言葉・意見のつながりを見つけ、生徒に返す
15	生徒の体験を価値付けし肯定する	なぜ・何がほめられたかを明確にして肯定する
16	その時の感情に焦点を当て肯定する	ネガティブな発言も、背景の感情の中に肯定できるものもある

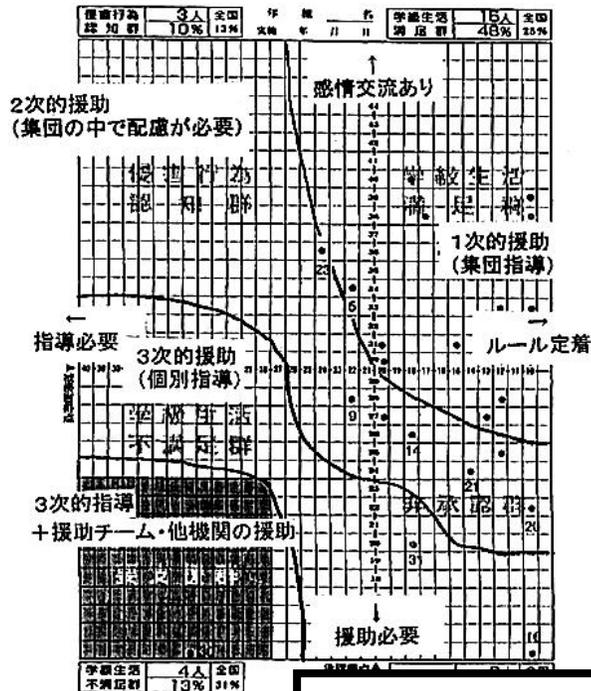
Q-Uテスト分析を活かした学級集団づくり

棚倉中学校

QUテストの見方とその結果の活用による指導

2023年7月11日 15:15~16:30

会津大学 教授 苅間澤 勇人



校内現職協議会にて、Q-U結果分析の研修を実施

要支援群生徒数

1 学年：2 名

2 学年：5 名

3 学年：2 名

学級の特徴

・ 親和的：54%

・ かたさ：23%

・ ゆるみ：15%

・ 不安定：8%

以上を踏まえ

- ・ 各学年の要支援群生徒を生徒指導委員会で共有し、対応を確認。
- ・ ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニングを全学年で共通実践中。
- ・ 肯定的な関わりを行い心理的安定性が保障された環境作りを継続

7/11 現職教育全体協議会

2 学期以降の取り組み

① 心理的安全性の高い学級集団づくり（学級会、Q U分析を活かす）

- ・ 週に一度の、朝の職員打合せを廃止
- ・ その時間を活用し、グループエンカウンター、SST、アサーショントレーニング、ピュアサポートを各学年・学級で実施。



③ 小中連携の強化

- ・ 互見、参加型互見授業により、教員の教科指導力をつける。
（学びの変革）
- ・ 基礎的・汎用的な4つの能力を伸ばす。

② 四半期ごとの振り返り・目標づくり

- ・ 生徒間の認め合いツールとして
- ・ 生徒の自己理解・教師の生徒理解を深める
- ・ 連携型中高一貫教育への活用を見通して

ご清聴
ありがとうございます
ございました